

教科目名 プロジェクト演習 (Project Exercise)

専攻名・学年 : 全専攻 2 年 (教育プログラム 第 4 学年 科目)

単位数など : 必修 1 単位 (前期 1 コマ, 学習保証時間 22.5 時間)

担当教員 : 高橋 徹, 佐野博昭, 山田繁伸

授業の概要			
特別研究の遂行には, 論文作成能力, プレゼンテーション能力, ディスカッション能力などが必須である. この教科では縮約練習などにより, 論文作成の際に役立つ論理的な思考法や文章構成法を習得する. 更に, 実践的なディベート方式の授業により, 自らの力で考え, 表現できる能力を養成する.			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1)(C1), JABEE 目標(a)(f)	
(1) 縮約練習を通し, 日本語による文章構成法を習得する. (小テスト, 定期試験)			
(2) 漢字・送り仮名など, 日本語の基本について再確認する. (小テスト)			
(3) 文章のパラグラフ化を理解し, 論文を論理的に構成できる. (定期試験)			
(4) 情報を収集し, 論理的に自らの考えを構築し, これを表現して討議を行うことができる. (ディベート)			
(5) 事実と自らの考え, 他者の考えと自らの考えとを区別できる. (ディベート, 定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	【日本語表現】 「日本語練習帳」の解説, 縮約練習の説明	教科書「日本語練習帳」の内容を理解する. 特に, 文章の構成力を身につける上で役立つ「縮約」の練習法について学ぶ.	【理解の度合い】
2 ~ 6	縮約練習, 解説	新聞の社説など, 与えられた文章について縮約を行う. 縮約した文章は教員によって評価される. 毎回, 100 点満点中 80 点以上を取ることが望ましい.	
7 8	「理科系の作文技術」の解説 パラグラフ化の練習	教科書「理科系の作文技術」の内容に触れる. 特に, 文章のパラグラフ化について学習する. 2~8 回まで授業の最初に漢字などの小テストを行う.	
9	小テスト	縮約, 漢字書き取りなどについて小テストを行う.	【試験の点数】 点
10 ~ 12	【ディベート】 解説, グループ分け, 資料収集, 作戦会議, プレゼンテーション作成 (賛成・反対の決定はディベート直前 に行うのでどちらの側でもディベ ートできるように準備する.)	与えられた複数のテーマについてディベートを行う. 学生は 2~3 名ずつの班に分かれ, それぞれのテーマについて 2 つの班が賛成派・反対派の立場となりプレゼンテーションおよびディベートを行う. ディベートの判定は, 教員およびディベートに参加していない班の学生によって行われる.	【理解の度合い】
13 14	プレゼン, ディベート プレゼン, ディベート	10~12 回まで, 授業の最初に縮約練習をする.	
15	前期期末試験 前期期末試験の解答と解説	小論文, 縮約など	【試験の点数】 点
履修上の注意	縮約練習をする上で必要な国語辞典などを用意すること		【総合達成度】
教科書	大野 晋, 「日本語練習帳」, 岩波書店. 木下 是雄, 「理科系の作文技術」, 中央公論新社. ディベート用プリント.		
参考図書	松本茂, 「頭を鍛えるディベート入門」, 講談社.		
事前準備学習	教科書の対応箇所を読んでおくこと. 日常において理系の作文を行う際には, パラグラフを意識して作文する習慣をつける. 文章を読む場合には, 事実か意見かを意識しながら読む.		
関連科目	日本語表現法, 卒業研究, 特別研究		
総合評価	授業中の小テスト・縮約練習結果・取り組み状況 (約 70%) と定期試験 (約 30%) により総合評価する.		【総合評価】 点